

保団連第 49 回定期大会 発言通告用紙

協会・医会名 千葉県保険医協会	氏 名 岡野 久
文書発言	
発言テーマ	「保団連版歯周病糖尿病医科歯科連携手帳」を使用した会員への意見、要望を集約し、より多くの会員が使えるような手帳の改編の検討を
<p> 発言内容 2018 年 9 月に千葉協会で制作した「歯周病糖尿病医科歯科連携手帳」を原案に千葉協会・保団連研究部で議論を重ね、医師、歯科医師だけでなく、看護師・歯科衛生士・糖尿病療養指導士、管理栄養士など多職種と患者さんとの対話を通じて健康状態を把握できる内容に改善された「保団連版歯周病・糖尿病医科歯科連携手帳」が完成した。 </p> <p> 連携手帳発行後、各協会・医会から 40,000 部の注文が寄せられ、医科歯科の診診連携、病診連携をになうツールとして大きな期待が寄せられていることは周知の事実である。 </p> <p> この間、千葉協会では連携手帳の全国的な普及をすすめるために、手帳の監修をした栗林伸一氏（船橋市・三咲内科クリニック院長）が「糖尿病の病状評価の記入の仕方」、また三辺正人氏（神奈川歯科大学歯周病学分野教授・保団連研究部員）が「歯周病健康度評価の記入の仕方」と題し、評価項目の内容の設定理由と評価の必要性、歯周病治療のスクリーニングの意義などを解説、実際の記入例もスライドでわかりやすく示した活用法を全国保険医新聞 9/25、10/5 号に執筆し、全国の会員へ発信した。 </p> <p> また、11 月 16 日には、3 回目となる「医科歯科連携協力医学習会」を開催し、27 名の参加があった。この学習会は、歯周病と糖尿病の治療を通して、連携手帳の有用性を紹介し、地域での医科歯科連携を推進するために 2016 年から継続して行っており、現在まで約 100 人の会員が協力医に名を連ねている。今後、医師の協力医を募るために、糖尿病学会専門医の会員を対象に、訪問活動を行い、歯科医師との地域のマッチングづくりを行っていく予定である。 </p> <p> また、連携手帳を実際活用している会員や役員からは、一般の内科では検査項目が多く使いづらい、次回検査日の記入、チェック項目の点数が不良の患者への医科・歯科医療機関への受診のすすめかたや医師・歯科医師へのコメント欄へ必ず記載してもらうための工夫など連携手帳の改善点も指摘された。千葉でも引き続き会員から寄せられた意見をもとに、委員会で議論し、連携手帳の改編案を検討していく。 </p> <p> 保団連としても、各協会・医会で連携手帳を使用している会員にアンケートをとり、記載項目や記載方法、実際使ってみた感想など意見や要望を集約し、より多くの会員が使いやすい連携手帳を目指し、改編を図っていくよう要望する。 </p>	